

国語 第6学年 宇宙や地球の未来について話し合おう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：宇宙に関わる文章から書き手の思いと根拠となる経験を捉え、宇宙や地球の未来への自分の考えをまとめる。大きな理想だけを述べず、本文のどの見方から考えが生まれたかを示す。C(1)オ・C(1)カの学習として、未来についての話し合いメモ。本文の根拠、自分の考え、友達から加わった視点、確かめたい問いを記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、宇宙への思いを読んで未来への自分の考えをまとめ、意見の共有によって考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：未来についての話し合いメモを残す。本文の根拠、自分の考え、友達から加わった視点、確かめたい問いを記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：宇宙への憧れの作文だけになる。将来の技術や環境を確実な事実のように語る。これについて、書き手の経験・思い、自分が考えたこと、調べたい疑問を分ける。追加資料の出典と時点を記し、未来の予測は予測として述べる。〔知識及び技能〕(2)イとC(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「書き手のどんな経験や言葉から、宇宙や地球の未来を考えましたか。自分の意見の根拠になるのはどの部分ですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：未来についての話し合いメモは紙に記録できる。本文の根拠、自分の考え、友達から加わった視点、確かめたい問いを記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：未来への提案が実現できるかまで判断するのか。

返し：C(1)オ・カでは、本文を根拠に考えをまとめて広げる。実現可能性の断定を求めず、意見の根拠と、まだ確認が必要なことを分ける。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「書き手のどんな経験や言葉から、宇宙や地球の未来を考えましたか。自分の意見の根拠になるのはどの部分ですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

